

# ただあまがまま

## 今年一年誠にありがとうございました

茶の湯というのは、日本の伝統文化が生み出した「究極の接待手法」です。「茶の湯の心をもって接待に臨め」で、そのたどり着いた、究極のスタイルというの、沈黙を基調としたコミュニケーションです。

言葉を尽くすことが必ずしも濃厚なコミュニケーションではないことを改めて思い起こさせてくれます。大切なのは「明日は死ぬかもしれない命」という意識。「一期一会」という言葉があるように、相手に真剣に向き合うことが大事。だから一対一で対峙して、自らもてなすことに意味がある。

人生で一度、真剣勝負だからこそ、できるだけ神経が行き届かせたいと思う。美にこだわるのも、美しさの追求というより「繊細な心配り」の表れです。

接待はあくまでも「自分もてなすこと」が目的。それが相手に伝わるかどうかは別の話で、伝わらなくてもそれは構わない。無心で相手をもてなすからこそ、伝わる気持ちがある。逆に最初から生臭い話をして、自慢話をしてたら「もてなし」になるはずがない。

利休は茶の湯のあり方について、「茶の湯とはただ湯を沸

かし、茶を点でて飲むばかりなる事と知るべし」という言葉を残している。テクニクや形に走りがちだけど、本質はとてもシンプルだ。

心構えについてさらに踏み込んだ利休「七則」という有名な言葉がある。

茶は服のよきように点て、炭は湯のわくように置き、冬は暖に夏は涼しく、花は野の花のように生け、刻限は早めに、降らずとも雨の用意、相客に心せよ  
接待は純粋に人間関係を深

めることが目的。ただ無心にあるがままに。



◆ ◆ ◆ ◆ ◆  
今年始めに、事務所HPをマスメディアに対峙するため急遽立ち上げました。

「事務所便り」は、この90号まで、年73号を数え、月平均6号です。これも皆様のおかげと、深く感謝致しております。誠にありがとうございます。来年も本年以上、よろしくお願い致します。皆様方の、気分転換に、変わった視点で？、お役に立てれば幸いです。

この一年、内外とも政治・経済・環境等、変革の年でありました。まさに「チェンジ」です。

零細企業でも戦略の立案は、広い世界を視野にした発想が必要です。

食はエネルギー、農地は油田です。中小零細だからこそ、広い視野と発想が必要。



来年は11月5日より通常業務  
来年もよろしくお願ひ致します

(有)西川経営オフィスサービス  
中村会計  
事務所便り  
2009年12月28日 (月) N090  
地域から明るい未来を作ろう

## 日本の新世紀

今秋、日本で有史以来の民主革命が実現しました。近頃の日本人には「強きをくじき、弱きを助ける」という反骨精神が欠如していると言われ、むしろ強い者に媚びて弱い物には威張るような卑しい人間が多いのが現実です。

まず、弱者が勝利するには他の人と協力して一番強い奴を叩くのが最良の戦略であるという、共通認識を持つ事から始めなくてはならなかった。民主主義は多数決に非ず。某政治家が以前「民主主義は多数決」と発言していたが、本来、民主主義は多数決の意味ではない。

新しく民主主義の時代が始まったのです。つまり革命という「特権階級対民衆」の権力闘争に勝利して始めて国民は民主主義を手に入れる事が出来たのです。日本では政治家でさえ「民主主義は多数決」程度にしか考えていない。

実際、選挙における多数決としてしか民主主義は機能していない。

民主主義とは、文字通り「国民に主権がある」という

革命によって王権が国民へ委譲され、古い君主制が終わり、

戦後民主主義はアメリカによって上から与えられた物だし、日本では有史以来一度も革命が起きていないのだから、民主主義が形式的にしか根付かないのも無理はない。これだから本場の民主主義社会ですが・・・